

マツシロ株式会社

2018年度 環境経営レポート

認証・登録番号 0001034

(対象期間：2018年6月1日～2019年5月31日)



B I Y防災バッグ肩掛けタイプ

作成日：2019年8月15日

更新日： 年 月 日

この紙は端紙を使用しています

■ごあいさつ

気象庁は今年防災気象情報を警戒レベル5段階の運用を始めました。それだけ今までにない大雨や台風などが頻繁に発生するようになったことを表しています。夏の暑さも相変わらず35度を大幅に超える猛暑日が続いています。私たちは今までの常識以上の対応を求められるようになっていきます。弊社も防災に関しての商品開発を行い、BIY防災バッグという新商品を2月に売り出しました。エコアクション21の活動を通じて環境について深くかかわります。また、FC大阪のスポンサーとなり、彼らが行っている貧困層の子供たちへの寄付を実施することによりSDGsにも積極的に活動することになります。

2019年8月
代表取締役社長 松城幹夫

環境経営方針

当社は、紙袋の製造販売メーカーとして、丈夫で何度でも使用していただける、高品質の商品を製造することに力を入れ約半世紀が経過しました。とは云え、残念ながら紙袋は最終的にはごみになってしまう商品です。そのため、当社は以前から常々環境を意識してまいりました。

当社経営方針の中に、「環境を意識して、地域社会に信頼され、社会に貢献する会社になります」という項目があります。この方針を追求する為、全社一丸となって積極的に、自主的に環境経営システムを構築・運用し、保全活動を追及していきます。当社の事業活動における環境負荷の低減、地域社会および地球環境の改善を行うために行動指針を制定します。

・ 行動指針

1. 地球温暖化緩和のための省エネルギー
2. 資源の有効利用
3. 廃棄物の削減
4. 有害化学物質の使用禁止
5. グリーン調達並びに環境にやさしい商品生産と企画及び販売

以上について、環境目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

- ・ 環境関連規制及び当社が約束した事柄を順守します。
- ・ 環境への取り組みを環境活動レポートとして公表します。

制定日：2005年10月21日

改定日：2019年6月24日

代表取締役社長 松城 幹夫

取組の対象組織・活動

■組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
マツシロ株式会社
代表取締役社長 松城 幹夫
- (2) 所在地
本社/工場：大阪府東大阪市角田1丁目10番8号
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 物流管理課：山本 豪 TEL：072-962-1431
担当者 物流管理課：山本 豪 TEL：072-962-1431
- (4) 事業内容
紙袋及び袋物全般の製造・企画・販売
雑貨小物の製造・企画・販売
主要製品：紙・ポリプロピレン完全分別紙袋、ポリプロピレンビニール被せ紙袋、
レジかご対応バッグ(エコマイラインバッグ)、環境対応買い物袋 等
ホームページ：<http://www.m-elitebag.co.jp>
- (5) 事業の規模
主要製品生産量 227 トン/年
従業員 11 名
本社/工場延べ床面積 3,976 m²
- (6) 事業年度
6月～5月

■認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：マツシロ株式会社
活動：紙袋及び袋物全般の製造・企画・販売

■環境目標とその実績

本社/工場における主要な環境負荷と環境目標及びその実績は次のとおりです。

項目	年 度	2013 年度	2018 年度		2019 年度	2020 年度
		(基準年)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の省エネ (0.493kg-CO ₂ /kWh)	(kg-CO ₂)	32,190.44	24,464.73	26,468.68	24,464.73	24,464.73
自動車燃料の削減	(kg-CO ₂)	9,815.75	7,656.28	6,923.31	7,361.81	7,361.81
都市ガス	(kg-CO ₂)	—	—	16.64	—	—
二酸化炭素排出量合計 (kg-CO ₂)		42,006.19	32,121.01	33,408.63	31,826.54	31,826.54
可燃廃棄物の削減	(kg/年)	2,880.00	1,872.00	2,400.00	1,872.00	1,872.00
節水	(m ³ /年)	80.00	64.00	61.00	63.20	63.20
環境配慮製品の販売促進	(万円/年)	6,192.66	8,979.36	8,615.77	8,979.36	8,979.36

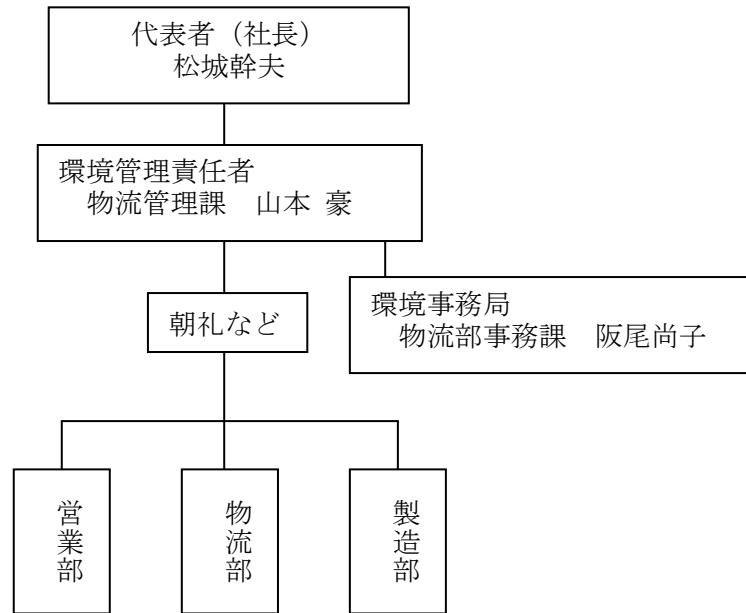
※有害化学物質の使用禁止は、製品への環境配慮として取り組む

※グリーン調達は、製品への環境配慮及び電力の省エネ、自動車燃料の削減手段として取り組む

■環境経営組織図及び役割・責任・権限表（実施体制の構築）

マツシロ株式会社 環境経営システム組織図

更新日 平成 30 年 1 月 1 日



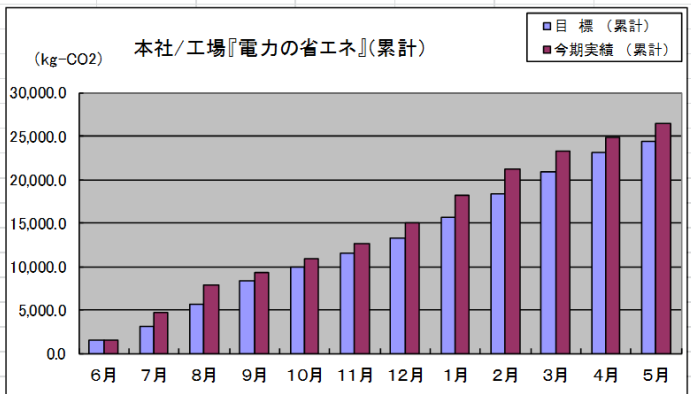
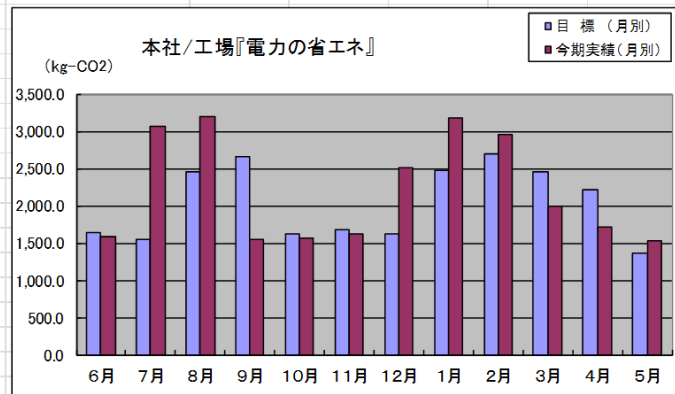
	役割・責任・権限
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 環境管理責任者を任命 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境目標・環境活動計画書を承認 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境活動レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめ票を承認 環境目標・環境活動計画書を確認 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境活動レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、EA21 推進委員会の事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 環境目標、環境活動計画書原案の作成 環境活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
実施責任者	<ul style="list-style-type: none"> 責任部門における環境方針の周知 責任部門の従業員に対する教育訓練の実施 責任部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 特定された項目の手順書作成及び運用管理 責任部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成、試行・訓練を実施、記録の作成 責任部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
朝礼など	<ul style="list-style-type: none"> 環境活動計画の審議 環境活動実績の確認・評価
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

■環境活動の取り組み計画と評価

本社/工場

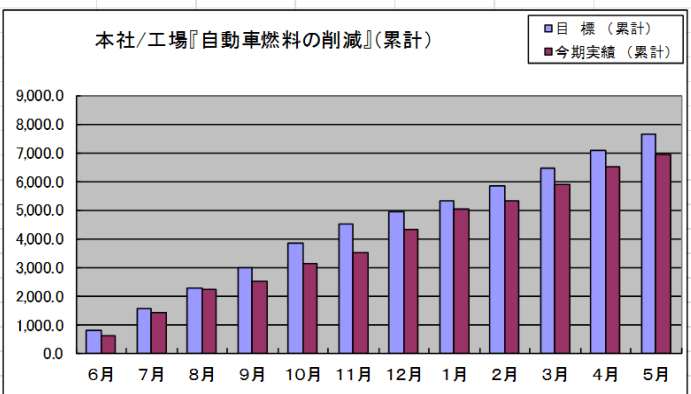
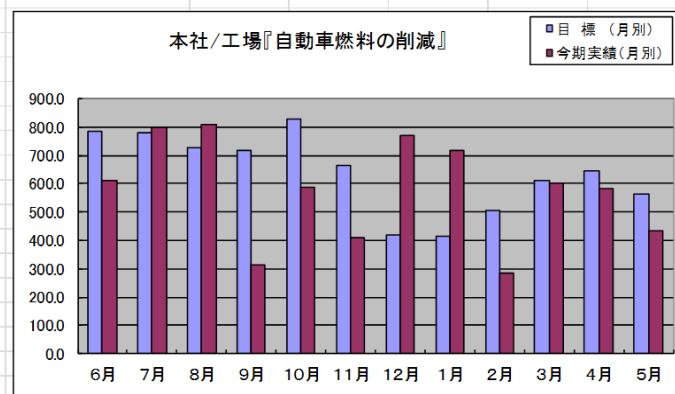
取り組み計画	達成状況	評価 (結果と今後の方向)
①電力の省エネ (基準年度比 76%) ・エアコンを省エネタイプに更新 ・省エネ機器の導入	基準 : 32,190.44kg-CO2 目標 : 24,464.73kg-CO2 実績 : 26,468.68kg-CO2 基準比 : 82.23% 17.77%削減 目標比 : 108.19% 8.19%増加	(目標未達成) 夏冬の冷暖房の使用頻度が多く目標をオーバーしてしまった。 体調管理に留意しつつ可能な限り節電に取り組んでいきます。 目標未達成の為、次年度削減比を76%のままにします。

(kg-CO2)	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
目標 (月別)	1,636.6	1,557.9	2,460.1	2,662.1	1,623.1	1,679.3	1,631.0	2,474.0	2,704.4	2,452.7	2,215.1	1,368.3
今期実績 (月別)	1,593.9	3,073.9	3,194.6	1,544.6	1,564.8	1,619.0	2,505.9	3,173.9	2,947.6	1,996.2	1,725.5	1,528.8
(kg-CO2)	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
目標 (累計)	1,636.6	3,194.5	5,654.7	8,316.8	9,939.9	11,619.2	13,250.2	15,724.2	18,428.6	20,881.3	23,096.4	24,464.7
今期実績 (累計)	1,593.9	4,667.7	7,862.4	9,406.9	10,971.7	12,590.7	15,096.6	18,270.6	21,218.2	23,214.4	24,939.9	26,468.7



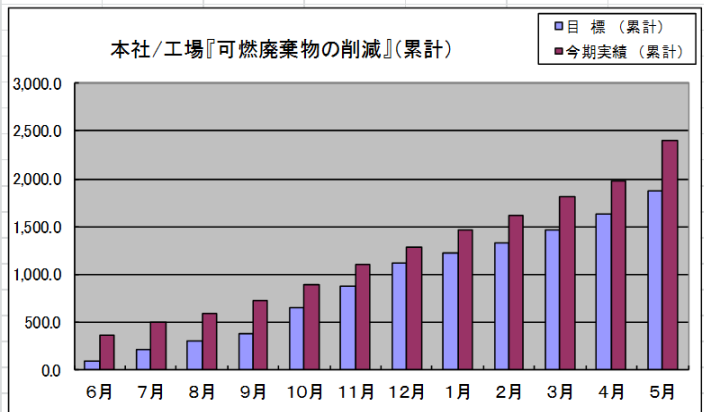
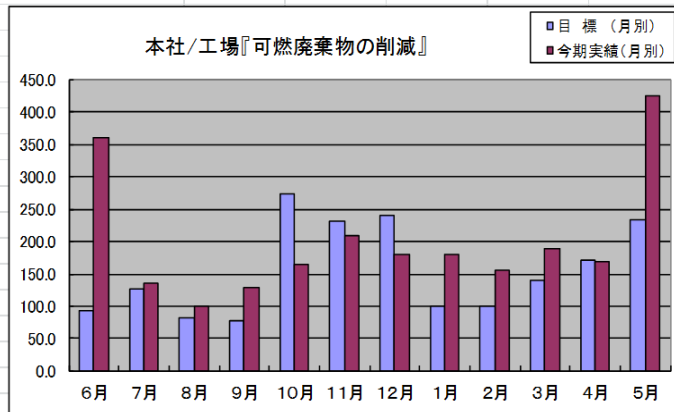
取り組み計画	達成状況	評価 (結果と今後の方向)
②自動車燃料の削減 (基準年度比 78%) ・営業ルート効率化 ・カーナビ導入 ・低燃費車に更新 ・在庫管理と出荷情報の共有⇒加工所への車使用頻度の削減	基準 : 9,815.75kg-CO2 目標 : 7,656.28kg-CO2 実績 : 6,923.31kg-CO2 基準比 : 70.53% 29.47%削減 目標比 : 90.43% 9.57%削減	(目標達成) 車の使用頻度が減った為、削減出来た。これからも効率の良い使用を心掛けます。 目標達成の為、次年度削減比を75%にします

(kg-CO2)	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
目標 (月別)	784.4	779.8	725.4	717.0	828.8	662.5	421.0	414.2	505.3	610.5	645.3	562.1
今期実績 (月別)	613.2	799.5	809.6	312.5	586.7	410.1	771.4	718.3	283.5	600.9	583.1	434.5
(kg-CO2)	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
目標 (累計)	784.4	1,564.3	2,289.6	3,006.6	3,835.4	4,497.9	4,918.9	5,333.0	5,838.4	6,448.9	7,094.2	7,656.3
今期実績 (累計)	613.2	1,412.8	2,222.3	2,534.8	3,121.5	3,531.5	4,303.0	5,021.3	5,304.8	5,905.7	6,488.8	6,923.3



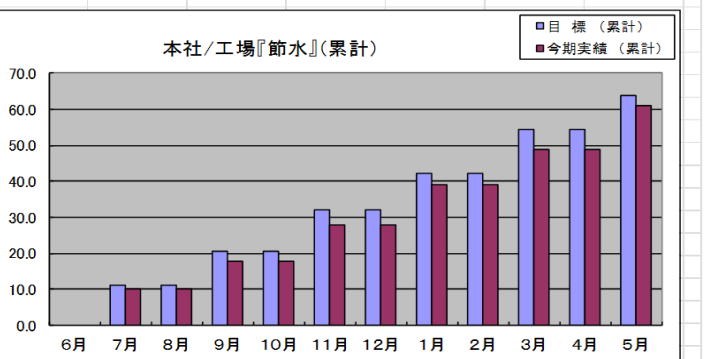
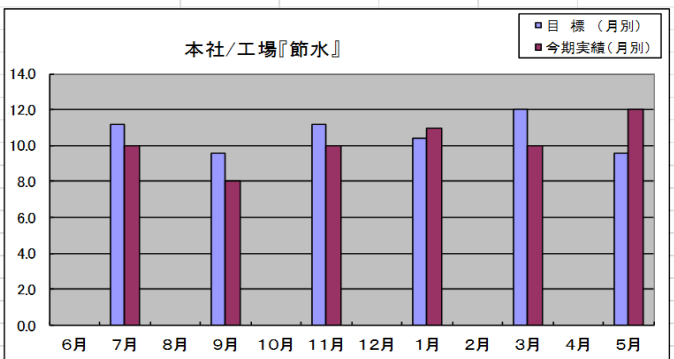
取り組み計画	達成状況	評価 (結果と今後の方向)
③可燃廃棄物の削減 (基準年度比 65%) ・ゴミの分別と削減 ・断裁ミスの削減 ・廃棄製品の再利用 ・端紙の使用 ・ミスコピー及びミスプリントの防止 ・スキャンによる資料保管でペーパーレス化の推進を図る	基準：2,880.00 kg 目標：1,872.00 kg 実績：2,400.00 kg 基準比：83.33% 16.67%削減 目標比：128.21% 28.21%増加	(目標未達成) 倉庫内移動に伴う不用品廃棄増の為、目標未達成となった。 移動終了後、目標達成を目指します。 目標未達成の為、次年度削減比を 65% のままにします。

(kg)	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
目標 (月別)	94.3	126.8	81.3	78.0	273.0	230.8	240.5	100.8	100.8	139.8	172.3	234.0
今期実績 (月別)	360.0	135.0	100.0	130.0	165.0	210.0	180.0	180.0	155.0	190.0	170.0	425.0
(kg)	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
目標 (累計)	94.3	221.0	302.3	380.3	653.3	884.0	1,124.5	1,225.3	1,326.0	1,465.8	1,638.0	1,872.0
今期実績 (累計)	360.0	495.0	595.0	725.0	890.0	1,100.0	1,280.0	1,460.0	1,615.0	1,805.0	1,975.0	2,400.0



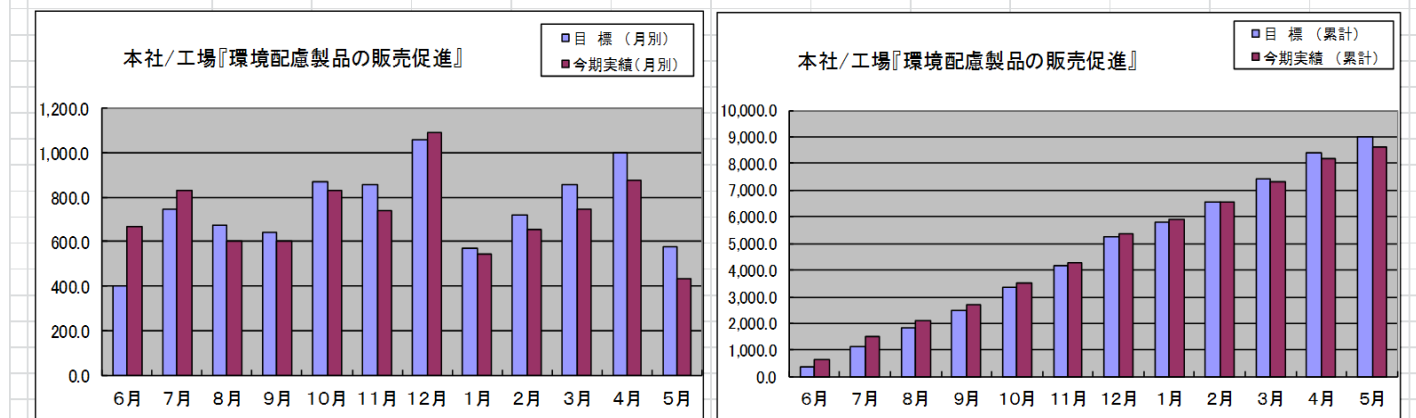
取り組み計画	達成状況	評価 (結果と今後の方向)
④節水 (基準年度比 80%) ・雨水利用による植木の水やり ・節水弁(バルブ)取付け	基準：80.00 m ³ 目標：64.00 m ³ 実績：61.00 m ³ 基準比：76.25% 23.75%削減 目標比：95.31% 4.69%削減	(達成) 無駄な水の使用を控え節水意識を持って行動した。 目標達成の為、次年度削減比を 79% にします

(m ³)	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
目標 (月別)	0.0	11.2	0.0	9.6	0.0	11.2	0.0	10.4	0.0	12.0	0.0	9.6
今期実績 (月別)	0.0	10.0	0.0	8.0	0.0	10.0	0.0	11.0	0.0	10.0	0.0	12.0
(m ³)	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
目標 (累計)	0.0	11.2	11.2	20.8	20.8	32.0	32.0	42.4	42.4	54.4	54.4	64.0
今期実績 (累計)	0.0	10.0	10.0	18.0	18.0	28.0	28.0	39.0	39.0	49.0	49.0	61.0



取り組み計画	達成状況	評価（結果と今後の方向）
⑤環境配慮製品の販売促進 （基準年度比 145%） ・エコマーク取得 ・有害化学物質の使用禁止 ・再生紙の使用 ・新商品の開発	基準：6,192.66 万円 目標：8,979.36 万円 実績：8,615.77 万円 基準比：139.12% 39.12%増加 目標比：95.95% 4.05%減少	（目標未達成） 環境だけでなく防災にも力を入れ産学連携新製品『B I Y防災バッグ』発売による売上アップを図る。 目標未達成の為、次年度増加比を 145%のままにします

(万円)	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
目標（月別）	402.6	743.8	674.8	643.2	872.9	856.1	1,061.2	569.7	722.8	854.8	1,002.0	575.5
今期実績（月別）	670.9	828.7	603.6	600.3	830.0	738.0	1,093.0	543.1	653.1	748.1	873.4	433.4
(万円)	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
目標（累計）	402.6	1,146.4	1,821.2	2,464.4	3,337.3	4,193.4	5,254.6	5,824.2	6,547.0	7,401.9	8,403.9	8,979.4
今期実績（累計）	670.9	1,499.7	2,103.2	2,703.5	3,533.5	4,271.5	5,364.6	5,907.7	6,560.8	7,308.9	8,182.4	8,615.8



【再生紙使用商品】

古紙パルプ配合率 30%以上

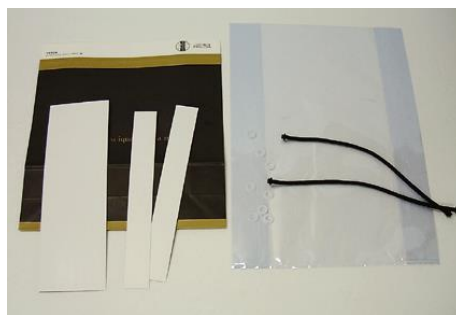


白無地手提げ袋

白無地コーティングバッグ

白無地ビニールカバーバッグ

【紙とポリプロピレンに完全分別可能商品】



【レジかご対応バッグ エコマイラインバッグ】



【環境対応買い物袋 かんたんバッグ】



■環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規	適用される事項	本社/工場
廃棄物処理法	一般廃棄物	○
騒音規制法	製袋機・断裁機	○
容器包装リサイクル法	包装資材商品	○
家電リサイクル法	テレビ・エアコン・冷蔵庫・洗濯機	○廃棄無し
フロン排出抑制法	業務用エアコン	○廃棄無し

環境関連法規制等の順守状況の定期評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。また、過去3年間にわたって違反や訴訟もありませんでした。

■外部からの苦情・要望等

- *中新開子供会：バザー用品提供のお願い⇒提供
- *角田自治会：いきいきグランドゴルフ大会参加賞提供のお願い⇒提供
- *大介ちゃん基金実行委員会：東大阪ふれあい祭りバザー協賛品提供のお願い⇒提供

■緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定：火災の発生
実施日：2019年6月7日 午前8時25分～8時55分
実施場所：物流作業場を想定した敷地内
参加者：11名（社員及びパート）
実施内容：石油ファンヒーター給油時、灯油漏れによる火災発生を想定し、これの対応手順のテストと水消火器による消火訓練を行う。
評価：火災対応手順書と消火器の取扱い手順の再確認が出来た
手順書の変更の必要性：なし

■代表者による全体の評価と見直し

見直しに必要な情報
管理責任者の報告及び改善への提案
[取り組み状況の評価結果]
①環境関連法規制等の順守状況（環境関連法規等順守記録による）
・2019年6月3日に定期評価を実施した結果順守されている
②問題点の是正処置及び予防処置の状況
・2018年度『電力の省エネ』『可燃廃棄物の削減』『環境配慮製品の販売促進』が目標未達成の為、目標達成へ向けての取り組みかたを是正処置する。
③前回までの代表者の指示事項への対応
・目標数値の変更に伴う取り組み姿勢と意識の向上を心掛けた
<改善への提案>
・なし

[目標・環境活動計画の達成状況]			
(詳細は環境活動計画書による)			
目標項目	目標値 達成状況	活動計画 実施状況	コメント (目標値に対するコメント・活動計画に対するコメント)
電力の省エネ	×	○	体調管理に留意しつつ可能な限り節電に取り組む
自動車燃料の削減	○	○	計画的な効率の良い車の使用による削減
可燃廃棄物の削減	×	○	分別及び再利用による削減
節水	○	○	無駄な使用は控える
環境配慮製品の販売促進	×	○	環境だけではなく防災にも力を入れる
<改善への提案>			
・目標達成の為の取り組み方法を考えて行動して下さい			
[周囲の変化の状況]			
①外部コミュニケーション記録より			
・中新開子供会バザーへの協賛品提供依頼があり、商品を提供した。			
・角田自治会主催『いきいきグランドゴルフ大会』協賛品提供依頼があり、商品を提供した。			
・東大阪ふれあい祭りでの『大介ちゃんバザー』への協賛品提供依頼があり、商品を提供した。			
②環境関連法規制等の動向他			
・なし			
<改善への提案>			
・なし			
代表者が自ら得た情報			
東大阪をホームとしたFC大阪（JFL サッカーチーム）とスポンサー契約。 FC大阪がSDGsの1番目「貧困をなくそう」の活動として行っている貧困な子供たちへの寄付に賛同してスポンサー契約を行う。 特定の商品販売すれば1枚に対して5円を寄付することを考えています。これにより間接的に商品を買っていただいた一般ユーザーを含めた弊社のお客様にもSDGsに参加していただくことができると考えています。			
代表者による見直し			
変更の必要性の有無・指示事項			
[環境方針]			
変更の必要性: <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無			
・変更なし			
[目標・活動計画]			
変更の必要性: <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無			
・SDGs活動として、貧困な子供たちへの寄付			
・敷地と建物のうち使用していなかった半分を売却することにより、すべての目標数字を変更する必要があります。			

[その他]

変更の必要性: □有 ■無

・変更なし

[総括]

未達成項目に関しては昨年同様、健康に留意しながら目標に向けて努力を重ねていく必要があります。昨年目標にしていた大学との産学連携商品のうち近畿大学のBIY防災バッグが新商品として発売することができました。これを機会に新しい販路開拓を行い今までにない活動ができるようにしていきます。新しくSDGsに対する取り組みも行っており、環境活動だけにとどまらない企業として社会に貢献する活動を進めていきます。

■BIY防災バッグの紹介一覧

https://www.youtube.com/watch?v=U_DjSLV2BIY&feature=share

近畿大学 elite NEWS RELEASE
平成31年(2019年)2月8日

報道関係各位 近畿大学

文芸学部×経営学部×マツシロ株式会社 『BIY(防災)バッグ』を共同制作

平成31年(2019年)2月15日(金)から、近畿大学(大阪府東大阪市)文芸学部芸術学科造形芸術専攻教授 安 起壁(アン キヨシ)、経営学部 教授 廣田 章光(ヒロタ アキミツ)と同ゼミの学生らが企画・デザインした、マツシロ株式会社(東大阪市)の商品、「BIY(防災)バッグ」が、通信販売により発売されます。

【本件のポイント】

- 文芸学部(芸術学科)と経営学部という他分野の連携によるユニークな企画・デザイン
- 防災を意識したアイデアによる社会に役立つ商品展開
- 学生が企業見学や企画会議を通じ、企画力とデザイン力を身につける実学教育を実施

【本件の概要】

近年、全国各地で大雨や台風、地震といった自然災害により、大きな被害を受けるケースが多く見られます。いつ起こるか分からない災害に日頃から備えておかなければという気持ちがあっても、何を準備すればいいのか分からない場合を想定して、本学の文芸学部と経営学部の学生が連携し、「BIY 防災バッグ」を企画しました。「BIY 防災バッグ」には災害時に必要となる物品のチェックリストが表面に印刷され、チェック項目に従って物品が準備できるようになっています。また、災害発生時には水を運ぶこともできる素材で作られています。名前の由来は、Do It Yourself(DIY:自分で作る日曜大工)のパロディーとして Bosai It Yourself の頭文字とし、災害に備えて自身で準備しようという意味を込めています。災害というシリアスになりがちなテーマを学生の企画によって親しみやすく、かつ覚えやすい製品イメージとしてアプローチすることで防災意識の向上を目指します。

【マツシロ株式会社について】

マツシロ株式会社は日本で初めて紙袋にビニールを被せることを発案し、買い物袋として市場で販売される紙袋を製造販売しました。それ以来、市場のニーズに合った商品開発を心がけ、環境を意識し、社会に貢献する会社になる活動を行っています。社会にいかに関与できるか、そしていかに社会から必要とされる企業になるかを探求することが務めであると考えています。環境省認定登録制度エコアクション21の認証取得などもその一環であると考えます。その行動の基本は、良い社会人であると共に良い人間でありたいという考えです。良い商品は良い企業から、良い企業は良い人間から形作られると考えております。

経営理念「夢のある商品作り人創り」

- 設立:昭和34年(1959年)6月
- 代表取締役社長:松城幹夫
- 本社所在地:大阪府東大阪市角田1-10-8
- 社員数:15名(2019年1月現在)
- ホームページ:<http://www.m-elitesbag.co.jp/>

【報道機関からのお問合せ】近畿大学 総務部広報室 担当:高橋、村尾
TEL:(06)4307-3007 FAX:(06)6727-5288 E-mail:koho@kindai.ac.jp

※本件に関する画像を以下サイトでご提供します。ご自由にお使いください。
<https://goo.gl/66nurk>

2019年2月28日「産経新聞」に掲載



2019年3月6日「日本経済新聞」に掲載



書籍でも紹介されました



他分野の連携によって生まれた実用性抜群の防災バッグ

近畿大学から芸術学部教授と経営学部教授の2名が共同でデザインした「マツシロ株式会社」が製作した「BIY(防災)バッグ」が発売。表裏にはチェックリストが印刷された、防災項目に従って必要となる物品を準備するようになっている。また、災害発生時には水を運ぶこともできる素材で作られている。名前の由来は「Do It Yourself」の頭文字を、災害に備えて自身で準備しようという思いを込められている。

マツシロ 株式会社
〒072-0424(43)
大阪府東大阪市角田1-10-8
TEL:06-4307-3007 FAX:06-6727-5288
E-MAIL:koho@kindai.ac.jp